

2016（H28）年度 第2回苫小牧市美術館協議会

【日 時】 2016年12月21日（水） 13時20分～14時15分

【会 場】 苫小牧市美術博物館1階研修室A

【出席委員】 日浦委員、林委員、居島委員、村井委員、橋爪委員、高城委員、高谷委員
計7名

【事務局】 荒川館長、武田主査、望月主査、宮地主任学芸員、小玉主任学芸員、
細矢主任学芸員、福田学芸員、佐藤（麻）嘱託学芸員、佐藤（里）嘱託学芸員

【式次第】

※開会前に、全委員から「二次評価シート」を集め、担当者が集計。集計終了後、議事進行中に全員に配付。なお、自由意見は議事の中での議論とした。

- 1 開会 （進行）望月主査
- 2 会長挨拶 日浦会長
- 3 議事および会議内容

（1）平成27年度 決算報告について

平成27年度美術博物館および勇武津資料館事業の決算報告について事務局から説明があった。一般会計の不用額の処理方法（翌年度への繰越の可否）や、入館者数の達成目標について質問が挙がり、

（2）平成28年度苫小牧市美術博物館・勇武津資料館事業実施報告について

平成27年度美術博物館および勇武津資料館事業について、事務局から説明があり、委員より「調査研究支援団体の種別・活動内容」「サイエンスカフェ」について質問が挙げられた。

当館の要綱に基づき設置されている「調査研究支援団体」の登録団体の具体的な活動内容についての質問では、各種事業の共催、発送・監視の業務などを行なっている旨を事務局から回答があり、更に積極的な連携事業を実施するよう委員から意見が挙げられた。

「サイエンスカフェ」については、集客方法やPR方法の質問があり、参加者のリピーターの割合が非常に多く、今後も更に積極的な事業展開を行う旨、事務局側から回答があった。

（3）平成27年度苫小牧市美術博物館自己点検評価について

事務局から平成27年度自己点検評価の集計結果を報告した。二次評価の中央値が全てA判定だったことを説明した。

委員からは、企画展の展示手法の切り口や、常設展の展示更新についての要望や、美術と博物の展示の連携・融合の手法について、特に自然史と美術の事例について質問が挙げられた。

事務局から、職員も新しい切り口で展示手法を模索しているが、今後も色々な試みを行いたい旨回答し、更に、自然史と美術の連携例として、平成 27 年度に実施した企画展の中から 3 つの事例を挙げ、様々な方法での連携の方法について説明した。

更に、資料収集要綱に基づく資料収集委員会の開催方法や、資料の受入について質問や要望が挙がり、今後の検討課題となった。

決をとり、本会議で配付した、各委員からの二次評価シートの集計結果を、平成 27 年度の自己点検評価結果とすることになった。

(4) その他

委員より要望が挙がる。ウトナイ湖がラムサール条約登録湿地になって当年で 25 周年を迎えるが、市民にはウトナイ湖は遠い上、「苫小牧に位置する」という認識はほとんど無い。登録当初は街をあげて大騒ぎだったが、現在では街とのつながりが希薄になり、館としても、冬季に「ハスカップ展」を開催した程度だったため、今後も長期的に、館としてウトナイ湖と連携して何らかの発信を行って欲しいとのことで、事務局側からも、ウトナイ湖の登録 20 周年には鳥の特別展を当館でも開催していたため、30 周年には何か事業を展開したい、との旨回答をした。

以上